

- 問1 北海道の石狩平野など、かつて植物が十分に分解されずに積み重なった湿地が広がっていた地域において、農業を可能にするために行われた土地改良の説明として、最も適切なものはどれですか。なお、この地域では耕地面積のほぼすべてが畑や牧草地として利用されています。 （2025年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 海岸線を大規模に埋め立てる「干拓」を行い、塩分を抜くことで大規模な機械化農業に適した土地を造成した。 | 2. 他の土地から性質の異なる土を運び入れる「客土」を行い、あわせて排水施設を整備して土地を乾かした。 | 3. 気温の低さを克服するために、農地の周囲に防風林を設置し、ビニールハウスなどの温室栽培のみに特化した。 | 4. 大規模なダムを建設して灌漑用水を確保し、もともと乾燥していた土地を水田へと変えるための水路を整備した。 |
|---|---|---|--|
- 問2 北海道の人口分布の変遷について述べた次の文のうち、1950年代後半から現在にかけての状況を正しく説明しているものはどれですか。統計上、札幌市の人口は1958年の約48万人から、2018年には約195万人へと、60年間で約4倍に増加しています。 （2021年 宮城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 札幌市への一極集中が進み、道内の他の地域から人口が流入することで、北海道全体の人口に占める札幌市の割合が大幅に上昇した。 | 2. 1970年代以降、札幌市ではドーナツ化現象による人口減少が激しくなり、現在は1950年代当時の人口規模を下回っている。 | 3. 札幌市の人口は増加したものの、北海道全体の人口増加率がそれを上回っているため、道内における札幌市の人口シェアは低下傾向にある。 | 4. 道内各都市でバランスよく開発が進んだため、札幌市以外の旭川市や函館市でも、札幌市と同等のペースで人口が増加し続けている。 |
|---|--|--|---|
- 問3 北海道の気候的特色を活かした産業と、それに伴う人口の動きについて述べた文として、正しいものを選んでください。 （2024年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 梅雨の影響を強く受ける夏の気候を利用した稲作が盛んであり、その収穫期である秋にのみ外国人人口が急増する。 | 2. 年間を通して温暖で湿潤な気候であるため、特定の時期に労働者が増減することなく、外国人人口は常に一定である。 | 3. 冬の降雪が少ないため、一年中安定して工場を稼働させることができ、工業に従事する外国人人口が年間を通して安定している。 | 4. 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。 |
|---|--|---|---|
- 問4 北海道の東部、釧路から中標津にかけて広がる、数十キロにわたって牧草地や牧場が続く大規模な農業地域を何といいますか。 （2016年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 石狩平野 | 2. 根釧台地 | 3. 十勝平野 | 4. 上川盆地 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問5 日本の小麦や小豆の生産割合に関する統計において、全国の約6割（61.8%）を占めて第1位となっており、第2位の福岡県（7.6%）や第3位の佐賀県（5.7%）を大きく引き離している都道府県はどこですか。 （2025年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 1. 鹿児島県 | 2. 新潟県 | 3. 北海道 | 4. 秋田県 |
|---------|--------|--------|--------|
- 問6 日本の諸地域のうち、北海道地方について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。なお、北海道には世界自然遺産に登録された知床があります。 （2018年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| 1. 道庁所在地は釧路市であり、水産業の拠点となっている。 | 2. 道庁所在地は札幌市であり、都道府県名と都市名が異なる例である。 | 3. 道庁所在地は函館市であり、本州との交通の要所となっている。 | 4. 道庁所在地は旭川市であり、上川盆地の中心都市である。 |
|-------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
- 問7 北海道、茨城県、新潟県、青森県などの農業統計において、農家一戸あたりの平均耕地面積を比較すると、北海道は約30ヘクタールと、他の都府県の数ヘクタール程度に比べて圧倒的に大きな数値を示しています。このような統計上の特徴を持つ北海道の農業の特色として、最も適切なものはどれですか。 （2016年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------|--------------------------------|-------------------------|----------------------------|
| 1. 大型機械を活用した大規模な農業が行われている | 2. 農家一戸あたりの面積が小さく、多くの労働力を必要とする | 3. 都市近郊での集約的な施設園芸が中心である | 4. 米の二毛作が盛んで、土地の利用効率が極めて高い |
|---------------------------|--------------------------------|-------------------------|----------------------------|
- 問8 北海道の室蘭などで発展した鉄鋼業の歴史的背景と、現在の産業構造の変化について述べた文として、背景や理由が正しく説明されているものはどれですか。 （2022年 東京都公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. もともと海外からの輸入原料を加工するために砂嘴の地形を利用して港を整備したが、現在は造船業が衰退し、製造品出荷額の大半が食品工業となっている。 | 2. 道内産の豊富な石炭や鉄鉱石を背景に発展したが、現在は輸入原料への依存を強め、自動車部品用の特殊鋼など付加価値の高い製品に注力している。 | 3. 明治時代の北海道開拓に伴い、農業機械の自給を目的として鉄鋼業が興されたが、現在は周辺国との競争に敗れ、すべての製鉄所が閉鎖されている。 | 4. 複雑な海岸線を利用した観光業と両立させるため、環境負荷の低い小規模な石炭火力を維持しながら、特殊鋼ではなく汎用的な建築用鋼材を主に生産している。 |
|--|--|--|---|
- 問9 北海道において、宿泊施設の延べ宿泊者数や温泉地数が全国的に見て極めて多い水準にある理由と、その観光業の特色について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。 （2023年 福岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 冬季の積雪が厳しいため、観光の主力は夏場の避暑や農業体験に限定されており、季節による宿泊者数の変動が極めて大きい構造となっているため。 | 2. 歴史的な寺社仏閣が全国で最も多く、それらの伝統的建造物を宿泊施設として再利用する取り組みが全道で進んでいるため。 | 3. 火山帯に位置する地理的条件を活かした温泉地が各地にあり、広大な自然景観やパウダースノーなどの地域資源を求めて国内外から多くの観光客が訪れるため。 | 4. 首都圏からの距離が近いこと、日帰りの観光客を主なターゲットとした小規模な宿泊施設が特定の都市に集中し、効率的な運営が行われているため。 |
|--|---|---|--|
- 問10 日本の都道府県別の農業産出額において、品目別の割合を示した統計資料のうち、畜産の割合が約52.5%と過半数を占め、一方で米の割合が約12.2%にとどまっているという特徴を持つ都道府県はどこですか。 （2016年 岩手県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 千葉県 | 2. 北海道 | 3. 宮城県 | 4. 新潟県 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問11 北海道の農業経営に関する二〇〇五年から二〇二〇年の推移について、統計的な事実として正しい説明はどれですか。なお、この期間において農業経営体の総数は減少しており、経営耕地面積の合計は約百万ヘクタールから約百万三万ヘクタールへと微減しています。 （2024年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1. 経営耕地面積が微減した主な原因は、団体経営の数が大幅に減少したことにある | 2. 農業経営体と団体経営の数がともに増加したため、耕地の奪い合いが起きた | 3. 団体経営の割合が低下したため、一経営体あたりの経営耕地面積は縮小した | 4. 農業経営体の総数は減少したが、団体経営の数は増加し、経営の集約化が進んだ |
|---|---------------------------------------|---------------------------------------|---|
- 問12 北海道の自然環境と産業に関連して、網走市や知床半島の沿岸で見られる冬季の自然現象と、その海域の特徴について説明した文として最も適切なものを次の中から選びなさい。 （2025年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 日本海に面しており、暖流の影響で冬も海水温が高いため、流氷が接岸することはない。 | 2. オホーツク海に面しており、夏になると南東からの湿った季節風によって流氷が再び発生する。 | 3. オホーツク海に面しており、冬に押し寄せる流氷がプランクトンを運ぶため、豊かな漁場が形成される。 | 4. 太平洋に面しており、親潮（千島海流）の影響で一年中流氷が漂い、大規模な稲作が行われている。 |
|---|--|--|--|